



がん診療拠点病院として 活発な活動を実践 がん難民減少を目指す

大阪府がん診療拠点病院の指定を受けてから3年目を迎えた耳原総合病院。診療体制を強化する一方、各病院と連携を取り啓発活動も推進している。

がん難民をなくすため 献身的な活動を実施

堺市内では5番目に大阪府がん診療拠点病院に指定され、地域のがん医療の一翼を担っている同院。現在の取組みや思いについて、田原先生にうかがった。「拠点病院として活動していくにあたり、当院ではがん難民を出さないという目標を掲げました。現在日本では緩和ケアに移行するには早く、しかし急性期病院での治療は終えて行き場がないという方が多くいらっしゃいます。そんな方を救うべく、当院では積極的に受け入れを行い、患者さんに寄り添う医療を提供しています。また、地域の皆さんに少しでもがんの知識を深めてほしいという思いから拠点5病院で連携し、年に1度『まちかどがん相談』を実施。さらに当院のがんサロンにて8職種が持ち回りで様々なミニ講座を開催しています。そして、がんは早期発見が何よりも大切。現在堺市では来年3月未まで、胃・肺・大腸・子宮・乳がん検診の自己負担金が無料になっており、当院でも対応していますのでそのことを周知し、患者さんを救えればと考えています」。



1.堺市内5つのがん診療拠点病院が協力し、昨年10月に開催された緩和ケア啓発イベントの様子。2.がんサロンでのミニ講座の風景。認定看護師、薬剤師など8職の職員が毎週開催している。

緩和ケアにも注力し 質の高い生活を応援

緩和ケア病棟と聞くと2度入れれば退院できないと思われがちだが、実はそうではなく、気軽に利用してほしいと田原先生は語る。「当院で定義している緩和ケアは、症状コントロールを提供する場所です。痛みがあれば痛みを取除き、その結果正常に暮らせるのであれば退院いただくことも可能です。実際に退院される方が多いです。病室は全室が個室でリラクセスできる環境。ご家族様とも寄り添っていただけるので、積極的にご利用いただければと思います。苦痛を我慢せず生活を送りたいなら、緩和ケアは良い選択肢といえるはずだ。



堺市を一望できる屋上テラスがあり全室が個室と、魅力的な環境が揃っている緩和ケア病棟。

社会医療法人 同仁会 耳原総合病院

田原 秀男 副病院長・がん支援センター長